

豊田市のシンビジウム産地を築き後継者育成に貢献

～今では消費者に喜ばれる直売用農産物生産を楽しむ～

豊田市 岡田 紘平（おかだこうへい）さん
洋らん（シンビジウム等）、果樹、野菜

【平成22年12月14日掲載】

豊田市でシンビジウム等の洋らん生産にたずさわり、経営移譲した現在では、直売用の果樹や野菜を栽培する岡田紘平さん（写真1）を紹介します。

岡田さんは豊田市のシンビジウム産地を築くとともに、数多くの後継者を育成した功績から、平成9年度には愛知県知事功労賞表彰、平成21年度に財団法人愛知県農業振興基金による「あいちアグリアウォード」（担い手育成部門）を受賞されました。



写真1 岡田紘平さん

1 経営の歩み

岡田さんは安城農林高校を卒業後、昭和31年に就農し、米、麦、野菜、ナシ、養鶏の複合経営を引き継ぎました。「今後、消費者は生活に余裕が生まれれば、心の豊かさを求めて、花きを求めるようになる」と考え、昭和40年にシクラメン生産、昭和41年に観葉植物生産を開始し、昭和47年に現在の主力であるシンビジウム農家となりました。平成4年には、出荷期間の拡大と労力分散を目的に、デンドロビウムやオンシジウムの導入を図り、シンビジウム主体経営を確立しました。

平成20年5月には岡田さんの長男である正人さんに、経営を完全にまかせました（写真2）。現在では施設面積約9,000㎡、シンビジウムやデンドロビウム・フォーミディブル等をあわせて年間約35,000鉢を出荷する全国屈指の洋らん農家となりました（写真3）。



写真2 後継者の正人さん（左）
倫子さん（右）夫妻

2 シンビジウム産地の育成

豊田市では昭和47年頃から水稻や観葉植物からシンビジウムに転換する農家が多くなり、産地として発展するためには、各自の栽培技術の向上が必須となりました。岡田さん



写真3 シンビジウムの出荷作業

自身、たいへん研究熱心で先進地とあらば全国あらゆる所へ出向き、技術を修得し、他の洋らん農家に情報を提供してきました。このような活動から、昭和48年に各生産者の技術向上と情報の共有化を目的に、「豊田市洋らん研究会」（現「豊田洋らん研究会」）を設立し初代会長に就任され、シンビジウム産地の育成に尽力されました。さらに昭和59年には地域の花き生産の一層の振興のため「豊田市花き園芸組合」を立ち上げ、初代組合長に就任されました。

3 数多くの研修生の受入

昭和47年から海外も含め多くの研修生を受け入れており、その総数は、52名です。特に愛知県立農業大学校の学生の受け入れが多く、これまでに18名を受け入れ、指導しています。また研修生のうち、28名が就農しており、研修終了後も定期的に岡田氏を訪問し、栽培技術や経営に関するアドバイスを受けています。

4 現在の取組について

後継者の正人さんに経営移譲する前から、直売用の果樹、野菜の栽培を始めており、今年で5年目を迎えました。特にウメにはこだわりがあり、平成19年6月にエコファーマーの認定を受け、安心・安全を看板に出荷を始めました。岡田さんのウメは売れ行きが好調なため「岡田さんのウメコーナー」を設けた直売所があるほどです。他に果樹ではミカン、レモン、ユズ、スダチ、ビワなど、野菜ではサトイモ、ニンニク、レンコンなど他の人が作っていないものを栽培し出荷しています。前述したように岡田さんは、研究熱心な方なので、先進地を調べては出向き、その名人に直接、栽培法を聞いたり、電話で問い合わせさせて栽培技術を常に身に付けています。

5 直売用農産物生産の魅力

「直売は自分の作ったものが、自分で値段が付けられるところが魅力的である」と語る岡田さん。持ち前の技術力で質の高い商品を提供するのはもちろんのこと、販売面に関してもたいへん努力されています。いつも直売所に出向き、消費者とのコミュニケーションを大切にしています。また、そこで得た情報を活かして、店頭で商品を並べる際にちょっとした工夫で売れ行きが良くなるそうです。

「本当に直売は楽しい」と満面の笑みで語っていただきました。

執 筆：農業経営課

取材協力：豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課